

最初に、さいたま市公園みどり課の方から緑の現状と緑化の取り組みについて伺いました。

さいたま市は、荒川河川敷や見沼田圃、元荒川周辺に緑地が多いものの、市全体の内、樹林地や農地など緑に覆われている面積の割合は約48%にとどまり、半分以上のスペースが建物や道路などになっているそうです。特に市の中央部に位置する北区・大宮区・中央区・浦和区・南区では緑が少ない状況になっています。市では現在、緑の

Town Report 「まちの緑化」の 今が知りたくて



市民リポーターがまちづくりの現地を見に行く「まちリポ」。今回のテーマは、「市街地における緑の創出・保全の取り組み」。以前からまちづくりに関心があり、市の「まちづくりセミナー」の受講経験もある吉田絵美さんが、特集で取り上げた公園以外の緑化事例について、現地を訪ねました。

基本計画に基づいて、緑地の保全と新たな緑の創出に向け、民有地の緑化推進への補助金、指定緑地への支援制度、屋上緑化推進制度の検討などさまざまな取り組みを進めているそうです。まちというものは、どんなに便利であっても、緑によるうるおいが不可欠だと思えます。

指定緑地として貴重な緑を守る

「わぁ、キレイ」
頭上に広がる色とりどりの紅葉を見て、思わずそうつぶやいてしまいました。こ



Profile

吉田絵美さん (EMI)
桜区在住。介助の仕事しながら、環境にやさしいまちづくりを勉強中。「緑のまちづくりに向けて、私たち一人ひとりが身近でできることがあると思います」。趣味はギター弾き語りで、週末にはさいたま新都心のけやきひろばで歌うこともあとか。地元のカフェなどで生まれたコミュニティも大切にしているそうです。

目に見えて近隣の緑地が減少している今日、生け垣づくりは、豊かな住みよいまちづくりの第一歩ではないかと思いました。

民間企業の取り組みに感心！

私も普段からよく利用する「イオンと野ショッピングセンター」。ここでは、敷地内の緑化に店をあげて取り組んでいます。2004年のオープン時には、1500名の市民も参加して、ケヤキなど地元になじみの深い約1万6千本の木々を植樹。さらにツタによる壁面緑化、屋上緑化も行われています。

公共施設も率先して

この日は、さいたま新都心を訪れ、県の取り組みとしての「さいたまスーパーアリーナ」の壁面緑化や、人工地盤上に220本のケヤキが植えられた「けやきひろば」も見学。さらに、浦和区にある埼玉会館の屋上庭園にも足を運んでみました。いろいろな場所で工夫して、緑を生み出そうとしているんですね。

今回、さまざまな取り組みを見て、緑のある住みやすいまちは、市民・企業・行政が協力しあってつくっていくものだとあらためて感じました。私も、自分の身近なところから、緑化について考えていきたいと思います。

住宅地の身近な緑化は生け垣から

民家の生け垣・植え込みも都市においては大切な緑。桜区上大久保の山崎さんのお宅では、生け垣助成制度を利用して、敷地の周囲のブロック塀を生け垣に変えました。

「緑化とともに災害時の危険性も考えてブロックから生け垣にしようと考え、制度を利用しました。近所の方からも、きれいなりましたね」と声をかけられるんですよ」



浦和区本太の「保存緑地」



北区宮原町の「加茂宮自然の森」



自宅のブロック塀を生け垣にした山崎さん



さいたま新都心けやきひろば

制度についてのお問い合わせはこちらへ。

指定緑地への支援制度について
都市局 都市計画部公園みどり課
TEL : 829-1423

生け垣助成制度について
財団法人 さいたま市公園緑地協会
TEL : 836-5678

「さいたまスーパーアリーナ」の壁面緑化